

いきいき通信

編集／大船渡市企画政策部男女共同参画室

(〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15 / ☎0192⑦3111(内線214) / ㊚0192⑥4477)



国は、「子ども食堂」などの食事提供や学習支援を行う、「子ども居場所」づくりに対する財政支援を行っています。地域のにぎわいの中心にいる自治会とは別に存在する「子ども食堂」は、少子化・人口減少により、地域で暮らす人の接点が減る現代で、地域交流拠点として、その必要性が高まっています。地域の子どものためにできることを、地域の皆さんで持ち寄り、健やかな成長のために多様な価値観を持つ人との関わりをつくることは、安全安心な地域づくりへとつながっています。

今年6月に公表された、NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえと各地域ネットワークなどが実施した調査によると、全国の「子ども食堂」は昨年比で1・6倍に増え、3,700カ所を超えたことが分かりました。この調査では、6小学校に1カ所の割合で存在していることが分かりましたが、岩手県では14小学校に1カ所、小学校数に対する子ども食堂数の充足率は47都道府県中44位、東北地方でも6県中4位となっています。

子ども食堂とは
子ども食堂は、地域住民が主体となり、子どもたちに食事を提供するコミュニティの場です。子ども以外にも、さまざまな世代の人が集まる交流の場になることや、地域の食材を使ったり、栄養について考える「食育」の場ともなります。

- 子ども食堂への協力をお願いします
おおふなと男女共同参画うみねこの会では、子どもの食育と交流を目的として、12月22日(日)に「子ども食堂」をプレオープンする予定です。食材の提供や調理にご協力いただける団体、事業者、個人への説明会を開催します。
- 子ども食堂説明会**
▽期日 10月28日(月)
▽時間 午前10時～正午
▽会場 働く婦人の家研修室
▽対象 個人、団体、事業者など
▽内容 子ども居場所ネットワークいわての川守田栄美子副理事長より、子ども食堂の運営についての説明。
▽その他 申し込み不要です。
▽問い合わせ先 おおふなと男女共同参画うみねこの会 山下エ子会長 (☎080-1838-1187)

「子ども食堂」による「子どもの居場所」づくりとは?

いわて男女共同参画フェスティバル 2019が開催されました

「メインテーマ」スポーツと男女共同参画

6月の「いわて男女共同参画推進月間」に合わせ、6月15日、岩手県民情報交流センター・アイーナで「いわて男女共同参画フェスティバル2019」スポーツと男女共同参画」が開催されました。会場には、県内各地から参加者が集まり、本市からは市内女性団体などから18人が参加しました。開会式に続いて表彰式が行われ、男女共同参画社会づくりの分野で活躍している方々が表彰されました。基調講演では、山口香さん(筑波大学大学院人間総合科学研究科教授/ソウルオリンピック柔道銅メダリスト)が「スポーツから考える男女共同参画」と題し、何事にも挑戦できる機会を得られるよう、ジェンダー・バイアス(※1)に対して、声を上げていくことの重要性について講演しました。

分科会では、人権、ダブルケア(※2)、LGBTなどのセクシュアルマイノリティ、女性の活躍、復興・防災における男女共同参画などをテーマに、講演やパネルディス

カッションが行われたほか、関連団体のパネル展示など、多彩な催しで男女共同参画を学びました。

用語説明
※1ジェンダー・バイアス
男女の役割について、固定的な観念を持つこと
※2ダブルケア
晩婚化・晩産化などを背景に、子育てと介護が同時期に発生する状態のこと



講師の山口香さんはソウルオリンピック代表選手時代の話などを行いました

性の多様性について考えてみませんか

同性愛者、両性愛者(恋愛対象が女性にも男性にも向いている人)、「身体の性」と「心の性」が一致しない「身体の性」に違和感を持つ人などは、全国民の3～5%、割合から20～30人に1人といわれています。

これらの人の多くは、それまで秘密にしていた自身の性的指向などを家族や友人などに明かす、「カミングアウト」をしたいという気持ちを抱えています。

カミングアウトは、必ずしなければいけないものではありませんが、周囲が無意識に表す態度や言葉が大きな壁となり、カミングアウトができないという悩みを持つ人が多いとされています。

思いやりのある社会をつくり、自分らしく生きること理解するため、皆さんも性の多様性について考えてみませんか。

参考文献および関連サイト

- ・中西絵里／参議院常任委員会調査室・特別調査室
「LGBTの現状と課題—性的指向又は性自認に関する差別とその解消への動き—」
- ・Jobrainbow「LGBTとは?今だからこそ、確認したい基礎知識」
- ・法務省「性的少数者に関する人権啓発サイト」

家族で夏休み工作づくり 9組18人が参加

～「背もたれつきいす」を作りました～



7月28日、勤労青少年ホームで、市内在住の小学生向け「木工体験講座～家族で夏休み工作づくり～」が開かれ、9組18人の家族が参加しました。

講師の菊地尊さん、菊地直美さん(立根町・大船渡の菊地工務店)から丁寧な指導を受け、家族で協力し合いながら、開始から2時間をかけ、「背もたれつきいす」を完成させました。

参加者からは、「のこぎりやかなづちを使う機会がないので、いい経験になった。子どもががとても喜んでいて、また来年も参加したい」との感想が寄せられました。